

さくらサイエンスプラン5周年シンポジウム(続編)

科学技術振興機構(JST)

さくらサイエンスプランが5周年を迎え、11月11日に「さくらサイエンスプラン5周年シンポジウム」が開催された。(於・東京大学弥生講堂一条ホール)文部科学省や各国外使館関係者、海外の送出し機関と日本の受入れ機関の教職員、さくらサイエンスクラブ(同窓会組織)会員で再来日中の者など約360人が一堂に会した。

シンポジウムの第1部は先号での報告の通り、成果発表会が行われ、第2部ではこれまでの評価や今後の進め方について議論された。

まず主催者側の挨拶として濱口道成JST理事長は「国際交流が難しい時代となり、多様な人材の育成が必要とされるなかで、さくらサイエンスプランに求められる使命は大きい。SDGsを実現するために今後も国を超えた交流事業を進めていきたい」と話し、

青山周平文部科学大臣政務官は「さくらサイエンスプランは首脳レベルの外交の場において高く評価されており、今後も諸外国との友好関係

構築に貢献することを期待する」と挨拶した。各国大使館からも参加があり、夏鳴九中華人民共和国駐日大使館公使参事官は「さくらサイエンスプランは中日の友好関係に良い影響を与えるプラットフォームになっている」と語り、ラージ・クマール・スリヴァスタヴァ駐日インド大使館臨時代理大使は「さくらサイエンスプランはいまや国際的な青少年のネットワーク構築に必要不可欠な事業になっている」と高く評価した。その他の大使館からもお祝いのメッセージが多く寄せられた。

次に日本科学未来館の毛利衛館長、中国・大連理工大学の郭東明学長、外務大臣科学技術顧問の岸輝雄氏による基調講演が行われた。毛利館長は「未来館では、つながりプロジェクトを進めている。地球規模の課題を解決するためにはサイエンスをベースにしたコミュニケーションが必要で、それを広めていくことが未来館のミッションだと認識している」と語った。



郭大連理工学大学長



スリヴァスタヴァ駐日インド大使館臨時大使



青山文科大臣政務官



濱口JST理事長



岸外務大臣科学技術顧問



毛利未来館館長



夏中国駐日大使館公使参事官



パネルディスカッションのパネリストら

の学生と教員計381人を招へいし、中日大学生交流大会」を実施した。新しい中日の時代を作るために一流人材を共同で育成することが大切」と語った。

岸顧問は「世界から日本に最も求められていることは、グローバル人材の育成」で、若い世代の国際交流を重視している。さくらサイエンスプランは典型的な科学技術外交の実践である」と強調した。

その後、さくらサイエンスプランの成果と今後の展望をテーマにした、パネルディスカッションが行われた。菱山豊氏(文科学科 技術・学術政策局長)、藤嶋昭氏(東京理科大学 栄誉教授)、大友克之氏(朝日大学 学長)、黄鴻堅氏(麻布大学 獣医学部 教授)のほか、さくらサイエンスクラブを代表してインドと中国出身の会員がパネリストとして登壇した。ファシリテーターを務めた馬場錬成氏(21世紀構想研究会理事長)は「今後もさくらサイエンスプランを末永く育てていく必要がある。さくらサイエンスプランは永遠です」と結んだ。

また、シンポジウムに参加した古屋圭司衆議院議員(日本マレーシア友好議員連盟会長等)、林方正参議院議員(日中友好議員連盟会長)、塩谷立衆議院議員(日チリ友好議員連盟会長)から祝辞が述べられた。古屋氏は「若い世代の国際交流のため各国・地域と連携してさまざまな事業を進めている。議員連盟としても応援していくことを約束する」、

林氏は「今日この場に集っている他の議員の先生方とともに国会議員団としてさくらサイエンスプランを強力に応援していきたい」、塩谷氏は「チリの人々は科学技術に感心が高い。さくらサイエンスプランをきっかけに日本の若者が海外に出て行くことも望んでいる」と語った。



パネディスを聴講する約360名の参加者(東大弥生講堂一条ホール)



尾身外務大臣政務官



塩谷衆議院議員



古屋衆議院議員



有馬センター長

最後に有馬朝子外務大臣政務官からは「さくらサイエンスプランはまさに科学技術外交そのものであり、外務省として関係者の皆様に心より御礼申し上げる」との挨拶があった。



沖村上席フェロー

最後に有馬朝子外務大臣政務官からは「さくらサイエンスプランはまさに科学技術外交そのものであり、外務省として関係者の皆様に心より御礼申し上げる」との挨拶があった。



林参議院議員

沖村憲樹JST上席フェローが総括報告として「さくらサイエンスプランを更に良い内容とするため、今日寄せられた要望は検討し、益々発展させていきたい」と語った。